

緑の相談所だより

— 第 6 9 号 —

2001. 4. 1発行

編集：財団法人旭川市公園緑地協会旭川市緑の相談所

講習会

初心者のガーデニング

花壇作りの基礎

日時 4月8日(日) 午後1時半～3時半

講師 旭川市緑の相談所
相談員 村田 正一

山野草の育て方

春にむけての仕事

日時 4月22日(日) 午後1時半～3時半

講師 北海道山草趣味の会
会長 村田 悠治さん

いずれも
定員 50名

無料

挿し木・接木の楽しみ方

日時 5月13日(日) 午後1時半～3時半

講師 旭川市緑の相談所
相談員 佐野 元雄

ミニ盆栽の作品観賞と育て方

日時 5月27日(日) 午後1時半～3時半

講師 ミニ盆栽愛好会
会長 高橋 炎道さん

オジギソウ

Mimosa pudica



別名 ガンショウソウ ネムリグサ、含羞草 (花言葉) 敏感、繊細

マメ科。ブラジル原産の春まき1年草としてあつかわれている。花期6～8月。日光、高温を好む。

羽毛状の葉にさわると、つぎつぎに葉をたたむ。光を遮断すると、すべての葉が閉じて眠ったようになる。

15℃以上であればピンクの球状の花をつける。

【育て方】

火山礫とピートモスを等量混合の用土で直径6cmくらいのポリポットにタネを5～10粒くらいずつまき、湿度を十分に保ち25℃内外の所で管理する。

発芽し育ってきたら、2～3号鉢に1本ずつ植える。生育状態をみて4～5号鉢に鉢替えする。

日当たりの良い場所に置く。

庭木・花木などの繁殖

その1

繁殖は庭木、花木栽培の基本となる重要な技術です。植物の繁殖方法には2つの方法があります。

1. 種子繁殖 2. 栄養繁殖 (株分け、挿し木、取り木、接木、組織培養)

挿し木

- (1) 根ざし：根を数センチに切り乾燥させないように地中にさして、根から不定芽を出させる方法。(フジ、ボケ、ジンチョウゲなど)
 (2) 茎ざし (枝ざしともいう)、緑枝ざし、休眠枝ざしがある。
 (3) 葉ざし：葉えきの芽を一つつけてさす葉芽ざし (ツバキ、インドゴムノキなどがある。)

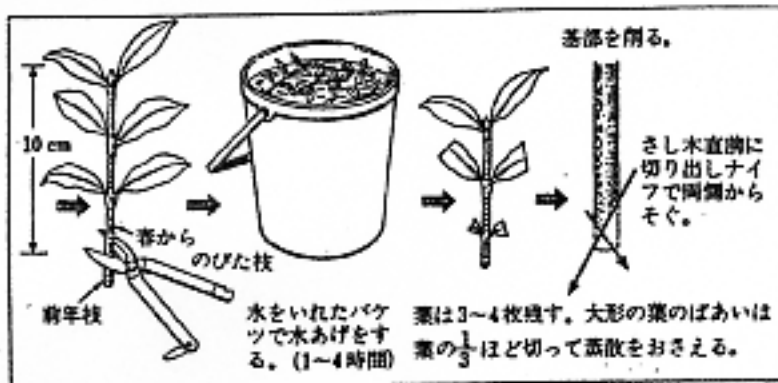
木本類のさし穂をとる位置



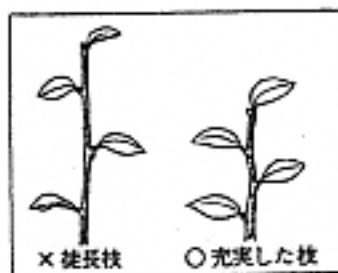
さし穂の切り口の切りかた



さし穂の調整



さし穂の充実度の見分け



挿し木用土

1. 砂 川砂、山砂。川砂より山砂がよい。(海砂は塩分を洗い流す)
2. 火山礫 道内産は安価、硬質で型崩れせず、保水、通気性共によい。
3. 赤玉土 通気性、保水性に富む。大、中、小粒に分けて市販。
4. 鹿沼土 酸性土。通気性、保水性共によい。硬質、軟質あり。軟質土は型崩れしやすい。(アザレア、サツキ、ツツジ類に適する。)
5. 水苔 吸水性に富む。挿し木、取り木用に適する。
6. パーライト 真珠岩を高温処理、多孔質、人工軽石。
7. パーミキュライト 蛭石を高温処理、保水性、通気性に富む。

用土の選び方

- ① 無肥料、無病害虫土
 ② 保水、排水、通気性の良い土

挿し木床の作り方 → 鉢・箱を用いる場合

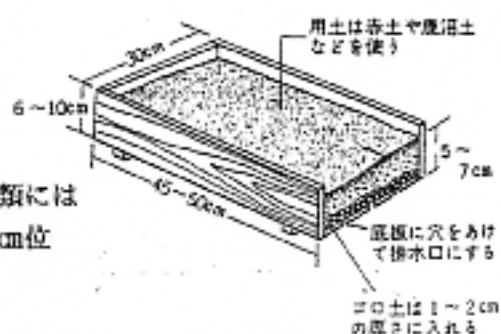
鉢の大きさ
 平鉢 20 cm 位
 茶焼き、駄温鉢



容器の深さ
 枝挿しには
 10 cm 位

芽挿し、草花類には
 6 cm 位

木箱の利用



春の園芸作業 ～ 4月・5月

雪が解け土の顔が見えますと植物も活動開始です。いよいよ今年の庭仕事のスタートです、何事も最初が肝心です、時期を逃さず春の作業に取りかかりましょう。

○ 花壇、野菜畑の土作り

畑に雪が残ってれば融雪剤（燐炭、苦土石灰等）を撒き早めに雪を解かし、土が乾いてから堆肥分等を施し1度深く耕します。苗植え、種まきの10日前になってから基肥を施し2度目の耕起をし、土を細かく砕きます。この時あらかじめマルチング等で土を暖めておきますと、苗を植えた後の生育が良くなります。

○ 庭木、果樹の防除

昨年中、イチイ等のカイガラムシ、サクランボのミバエ、スモモ、ナシ等のシンクイムシ、またスモモのフクロミ病、モモの縮葉病、特に果実の熟す頃にみられるハイボシ病等の被害で苦労された方々も多かったようです。これらの害虫、病菌の多くは樹皮の割れ目、落葉の下、木の下、浅い土の中、落ちた果実の中で越冬しております。暖かくなりこれら越冬病害虫が活動する前の早期防除が被害を避ける決め手です。

- ・ 樹木等の萌芽前の防除 ～ 落葉を清掃したり、地表を浅く中耕し、石灰硫黄合剤10～30倍液を地面、樹体に散布します。カイガラムシにはマシン油乳剤も有効です。いづれも新芽にかかると葉が枯れる等障害が出ますので要注意
- ・ 開花期前後の防除 ～ 暖かくなりスモモ等の花が咲く頃、シンクイムシ等も卵を生む時期に入ります。蕾がふくらんだ頃からスミチオン等を5～7日おきに2～3回以上散布します（満開時を避ける）

○ 樹木（花木、庭木、果樹）の新植、移植

4月下旬、5月上旬まで、新芽が出る直前までが適期です。展葉後では後の生育に支障が出ます。

樹木類は植えた後土を替えることがないので、苗の新植時に堆肥分など十分入った良い土をつくり、広く深い植え穴（50×50cm以上）に植え込みます。

○ 草花等の管理

- ・ 秋植え球根草花（チューリップ等） ～ 開花後早めに花がらを摘み、株の周囲に指先1つまみの化成肥料をまき、葉の生長を促し来年のための球根を太らせます。
- ・ 宿根草の植替え ～ 株（根）が混み合うと生育が衰えます。雪解け直後早めに株わけ、植替えをします。萌芽直前が最適期です。

○ 室内鉢物を戸外へ

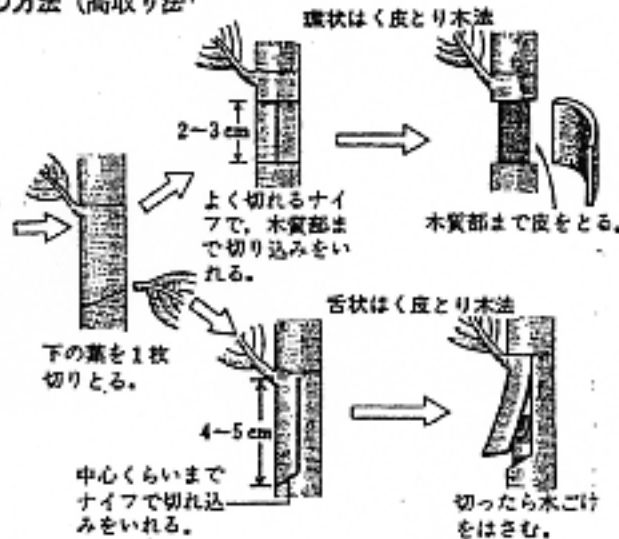
- ・ 葉焼けに注意 ～ 秋に室内に取り込んだ鉢物を戸外にだす場合、急に直射光線に長時間さらすと葉焼けの障害が出ます。最初は短時間、次第に時間を長くするなど徐々に外気に慣らしながら、手間を惜しまずに
- ・ 植替え ～ 多くの鉢物は休眠状態を終え、新芽を伸ばし始め生長の時期に入ります。5月は根づまりした鉢の土替え、鉢替え、株分け等植替えの最適期です。

取り木

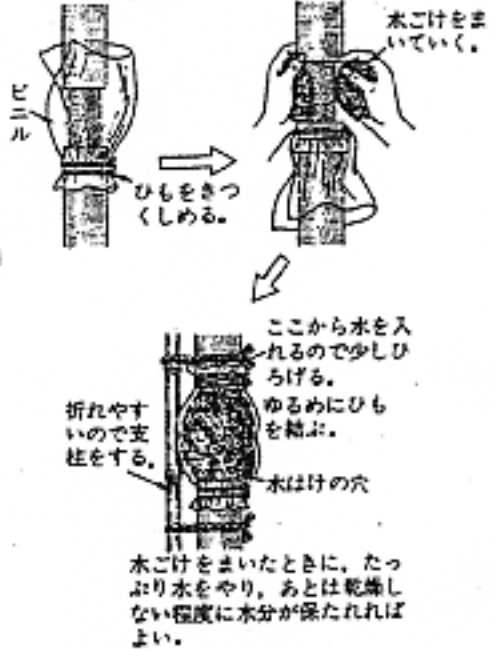
親木についたまま発根させ、発根後親木から切り離して殖やす方法。
一度に多くの苗を得ることは出来ないが、接木や挿し木が困難な種類に適している。
取り木の方法には、高取り法、圧条法（かさどり法）、もり土法など。

とり木の方法（高取り法）

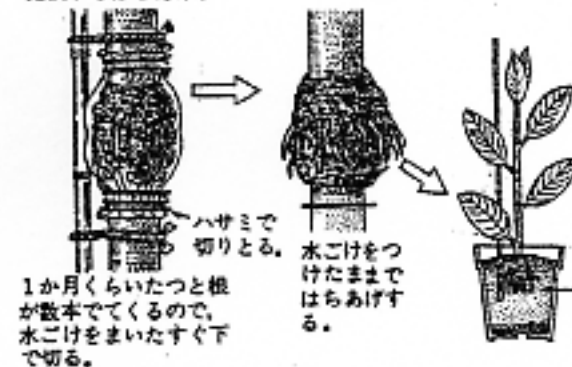
とり木の時期は
6-7月



はく皮部の手当て



発根からはちあげまで



はちあげ後1か月くらいは半日陰の場所におき、徐々に光線にならしていく。

用土(例)	赤玉土	5
	腐葉土	3
	火山礫	2

接木

つぎ穂と台木の形成層をあわせて新しい1固体にする方法。

★つぎ場所によって→枝をつく（枝つぎ）、芽をつく（芽つぎ）、根をつく（根つぎ）

方法には★つぎ方によって→つぎ穂と台木をあわせる（切りつぎ）

・（合わせつぎ）・（割りつぎ）・（呼びつぎ）

★台木を廻り上げるか→揚げつぎ、居つぎ。

接木の具体例

